

ドキュメンタリー映画「空想の森」の監督

たしろ  
田代  
ようこ  
陽子さん

ゆったりとした時間が流れる夜の食卓。若い夫婦がこんな会話を交わして笑った。「貧乏でも食べ物がいっぱいある豊かさを追求したい」「貯金はないけど、まきがいっぱいあるよとか」。自然な表情にカメラが寄り添う。



の風景を通して、本当の豊かさや幸せの意味を問う。住まいのある帯広から通い、今春の完成までに七年間を費やした。

「不安や葛藤、悲しみ、喜び、うれしさ。あらゆる感情を映画づくりを通じて味わった」。向き合った人々がにじませる感情と自身の思いを、二時間九分の作品に織り込んだ。

カナダでのワーキングホリデーが転機となり、東京の大学を中退し、あこがれの北海道、帯広でタウン誌発行会社に就職。一九九六年、新得で

始まった「空想の森映画祭」でドキュメンタリー映画と出会った。「つくろいと見る人たち、互いの熱い心が呼応していた。映画って人と人を結ぶんだと実感した」。その思いを初めての映画づくりにつなげた。

お披露目上映会を新得、帯広、札幌、東京で開き、「怖いくらいどこも反応が良かった」。七月の劇場公開（東京）を経て、秋からは全国各地での自主上映会開催を目指す。神奈川県出身、四十歳。（佐藤元彦）

ひと 2008